

地域の方々との交流を深め、コミュニケーション能力を育む生徒の育成

—地域を“再発見”する東中生—

碧南市立東中学校

1 実践のねらい

(1) 地域の方々との交流の活性化

本校は伝統的に地域で行われる行事に、生徒がボランティアとして参加してきた。この動きをさらに活性化することにより、生徒と地域の方々との交流機会を増やし、地域に貢献する喜びを実感できるようにする。

(2) コミュニケーション能力の育成

いじめ・不登校や特別な支援が必要な子供たちの増加は本校の課題である。学校の抱える課題はより一層複雑化・困難化している状況を踏まえ、これまで以上に学校・家庭・地域がそれぞれの立場から子供の教育に責任をもち、相互に連携・協力しながら、子供の成長を支えていくことが大切であるとする。そこで、地域の教育力を積極的に活用することで、生徒にとって有用な学びの場を設定し、生徒と教員間だけでなく地域の方々とつながり、コミュニケーション能力を伸ばせるようにする。

2 実践の内容

(1) 「地域に学びタイム」の実践

総合的な学習の時間や、特別の教科道徳の時間に、地域の人材を招聘し、地域の方から学ぶ機会を設定した（3年生の幼児教育実習はコロナ禍のため中止）。

1年生は2学期にパラカヌー選手に講演をいただいた。講師の方から、成人後に事故で体に障害を負った経験と、そこから奮起してパラリンピック候補選手にまでなった努力の過程を聞き、生徒たちは大きく心を揺さぶられ感動していた。

2年生はキャリア教育の一環として、将来の自分の姿を考えるため、様々な職種の方を11月に地域講師として招き、「達人に学ぶ会」を行った。当日は8講座が開講され、講師の方々から仕事のやりがいや苦勞を聞いたり、疑問に思ったことを質問したりして、将来の自分を考えるよい機会となった。また、3学期には個々の学びを冊子としてまとめ、学級で学びを共有した。

特別支援学級では、校内の温室を活用して草花を育てることを通して情操教育を進めた。「花いっぱい活動」として種から苗を育て、校内や地域の公民館・保育園などの9箇所の施設に花苗を贈る活動を行った。この活動を通して、生徒は「きれいな花が咲くように苗を育てたい」との思いを強くし、熱心に作業に取り組んだ。

また、碧南市の特産野菜であるにんじんの栽培に挑戦した。野菜の栽培にはノウハウが必要で、校区の農家の方を「にんじん先生」として指導を仰ぐことにした。畝立てや播種のコツを手取り足取り教えていただき、収穫まで継続的に指導を仰いだ。収穫したにんじんを市の行事である「そくばい会」で販売する目標を立て、間引き・除草などの作業を行った（そくばい会は中止）。



パラカヌーの練習体験



「にんじん先生」との作業

(2) 地域清掃ボランティアの実践

校区には天然湖沼の油ヶ淵がある。かつては汚染が深刻であったが、行政や地域住民の努力で浄化が進んできた歴史をもつ。

本校生徒も地域のボランティア団体(油ヶ淵葦船学校実行委員会)主催の湖岸葦刈りボランティアに参加を続けてきた。

7月と12月の2回、湖岸のごみ拾い活動を碧南市土木港湾課と連携して実施した。軍手をはめ、金ばさみを手に、葦をかき分けながら点在するごみを拾い、油ヶ淵の現状を肌で感じる事ができた。土木港湾課の方からは、靴を汚しながらも意欲的に活動する姿をほめていただいたことで、生徒はより充実感を味わうことができた。また、竹ぼうきを使って通学路の清掃をしたり、公園まで歩きながらごみを拾ったりした。すれ違う住民の方と元気に挨拶を交わすなど、地域に貢献する喜びを感じていた。



油ヶ淵の湖岸清掃活動

(3) 花の種プレゼントの実践

緑のカーテンや校内花壇を担当する緑化委員会では、自分たちが世話をした実ったアサガオやコスモスなどの種の活用方法について話し合いを行った。本校では7月と12月に地域の方に協力をしていただきながら、資源回収を行っていることから、地域の方にお礼としてアサガオやコスモスなどの種をプレゼントすることにした。そこで、緑化委員長から依頼を受けた環境委員会がメッセージを書き、花の種プレゼントを作った。プレゼントを受け取った地域住民の方には、大変喜んでいただいた。



花の種のプレゼント

(4) 地域行事ボランティアの実践

複数の地区行事ボランティアの参加希望を募ったところ、全校生徒の3分の1の応募があり、のべ参加数は242名にのぼった。コロナ禍のため多くの地域行事が中止となったが、公民館の花植えボランティアには25名が参加した。地区の青少年育成会議の方々や公民館の職員と一緒に寄せ植えを作り、小学校や保育園・区民館に届けることができた。このような地域活動を学校だけで紹介した。



花植えボランティアの活動

4 事業成果や課題

- ・ 生徒が地元の行事に携わることにより、地域の方々との交流を深め、地域の一員としての自覚が促された。また、地域の大人が中学生に関わることを通じて、地域全体で地域をよりよくしていこうとする思いを共有することができた。
- ・ 学校が地域の協力者や子供教室の関係者と情報交換の機会を多くもつことで、コミュニケーション能力を育み、よりよい信頼関係を築くことができた。
- ・ 地域行事への参加を通して、異学年の交流が多く見られ、集団でのルールを守りながら活動する中で、規範意識や社会貢献意欲が育ち、地域の再発見につながった。
- ・ 行事の計画段階から地域の協力者や組織・団体の方とかがかわる場を多く設定し、運営する経験と成就感を味わえるようにし、地域に貢献する喜びをさらに味わえるようにしていきたい。